



大良町

議会だより

佐賀県大良町議会
TEL (09546) 0 3 1 1
編集 議会広報編集委員会
印刷 松浦印刷株式会社



名実ともに日本一の
みかんづくりをめざして頑張ろう。

4億3千5百万円を補正 9月定例議会終る

町長提案理由を説明

(税条例の一部改正など)

九月定例議会は九月十六日、議会運営委員会を開いて会期を決定し九月二十二日召集された。

全議員十八名出席の下に開会され、九月二十七日までの六日間の会期を決定した。

開会冒頭、杉崎町長から中畑で発生した火災について報告がなされ、ひきつづき町長提出の十九議案と一諮問案について、提案理由の説明が行われた。

説明の要旨は次のとおり。

● 専決処分した事件の承認

町道亀の浦・金目線の荒木憲二氏名儀の土地(公衆用道路)三百三十六平方メートルの使用料等について荒木憲二氏から多額の要求に対する債務不存在確認の訴えについて、福岡地方裁判所民事部に訴状を提出して係争中であつたが、和解ができたので、専決処分した事項の承認を求めたもの。

● 太良町税条例の一部を改正す

る条例の制定

居住用財産を譲渡した場合の課税特例措置及び優良住宅地の造成等のため、土地等を譲渡した場合の長期譲渡所得の課税の特例措置の改正で、昭和六十四年度分から適用。

● 太良町育英資金の給付及び貸付に関する条例の一部を改正する条例の制定

育英学生の選考等を審議する育英学生審査委員会の設置を、現在は規則に制定していたが、これを条例で定めたもの。

● 太良町適正就学指導委員会条例の制定

適正就学指導委員会の設置については、現在教育委員会規則で規定していたが、地方自治法に規定する市町村行政機関の附属機関と解されるので条例を制定するもの。

● 太良町の公金を取り扱う金融機関の指定

地方自治法の規定により、本

町の公金の収納及び支払事務を取扱う金融機関に昭和六十三年九月議会で、株式会社佐賀銀行を指定するため議会の議決を求めたもの。

なお業務の実施時期は昭和六十四年四月一日から。

● 昭和六十三年年度県営土地改良事業に対する負担金

土地改良法の規定に基づき喰場ため池整備事業及び糸岐第二地区開拓地整備事業に伴う負担金について、知事から諮問があり、喰場ため池の負担率十五パーセントと糸岐第二地区開拓地整備の負担率六分の一の同意の議決を求めたもの。

● 昭和六十三年年度野崎漁港関連道整備事業(一工区)工事請負変更契約の締結

設計変更に伴う請負工事費の変更契約の締結について議決を求めたもの。

四千二百五十万円を四千三百五十九万八千円に変更

● 昭和六十三年年度野崎漁港関連道整備事業(二工区)工事請負変更契約の締結

設計変更に伴う請負変更契約の締結の議決を求めたもの
五千八百七十万円を五千九百二十万八千円に変更

● 町道の認定

林道経ヶ岳線で起点(県道多良岳公園線の終点)から林道多良岳横断線までの五百三十六メートルを町道として認定することの議決を求めたもの。

● 太良町の区域内にあらたに生じた土地の確認とその土地の字の区域を変更する。

(一) 多良漁港局部改良事業
栄町地先に橋梁の取付道路として造成したもので県知事の埋立竣工認可があり土地の確認と字の区域の変更について議決を求めたもの。

(二) 糸岐漁港関連用地として造成した糸岐川北地先(八大龍王さんのある所)の護岸物場場、野積場の埋立竣工認可が県知事からあつたので土地の確認と字の区域の変更について議決を求めたもの。

● 昭和六十三年年度太良町一般会

計補正予算(第四号)

補助事業等が追加確定したものと及び災害復旧事業等で緊急で重要な事業について、四億二千八百四十八万五千円の補正を計上した。

補正予算の主な事業は別表のとおり。

● 昭和六十三年年度太良町国民健康保険特別会計補正予算(第一号)

昭和六十二年退職者医療費負担額の確定による精算返還金及び高額療養費拠出金の補正。

● 昭和六十三年年度太良町簡易水道特別会計補正予算(第一号)
庁用自動車購入(更新)費の補正。

● 昭和六十三年年度太良町立多良病院事業会計補正予算(第一号)
テレビ・レントゲンの更新リース料の補正。

● 人権擁護委員の推せんについて意見を求める(諮問)
現委員の任期が十一月三十日までとなっているため、

森 義男(杉谷)
永洲秀澄(本町)
合浦省吾(中畑)
の三氏を候補者として推せんするもの。

一般会計補正予算の主なもの

(単位:千円)

事業名	既決予算額	補正額	合計	摘要
農地等災害復旧事業	130,482	111,644	242,126	63年災 農地 120箇所 施設 42箇所
林道災害復旧事業	1,007	17,805	18,812	山茶花線・フラン線・城平線
道路橋梁等 補助災復旧事業	19,547	44,746	64,293	63年災 河川 3箇所 道路 26箇所
新沿岸漁業構造改善事業 補助金(種苗生産施設)	114,300	9,982	124,282	飼育棟、クロレラ培養施設 電気設備、給排水空調施設 他
県道改築・舗装新築工事 負担金		12,800	12,800	多良岳公園線改築・舗装 竹崎上田古里線改築
県営港湾局部 改良工事負担金		8,000	8,000	大浦港(広江) エプロン舗装 L=14m 竣せつ 12,362m ²
木造建築物復権推進 パイロット事業補助金		6,600	6,600	高令林業作業実習室 43.74m ² 多良岳材製品展示販売室 32.40m ² 特用林産物展示販売室 32.40m ² その他 95.58m ² 計 204.12m ²

各会計予算現計表 9月末現在

(単位:千円)

会計名	既決予算額	補正額	合計	摘要
一般会計	2,960,276	428,485	3,388,761	
山林特別会計	26,000	-	26,000	
普通会計合計	2,986,276	428,485	3,414,761	
老人保健特別会計	712,500	-	712,500	
国民健康保険特別会計	1,149,700	5,884	1,155,584	
多良病院事業会計	573,268	-	573,268	
簡易水道特別会計	100,000	1,358	101,358	
水道事業会計	66,771	-	66,771	
総計	5,588,515	435,727	6,024,242	

九月議会で

議決した事項

- 専決処分した事件の承認 (和解契約の締結)
- 太良町税条例等の一部を改正する条例の制定
- 太良町育英資金の給付及び貸付に関する条例の一部を改正する条例の制定
- 太良町適正就学指導委員会条例の制定
- 太良町の公金を取り扱う金融機関の指定
- 昭和六十三年度県営土地改良事業に対する負担金 (和解契約の締結)
- 昭和六十三年度野崎漁港関連道整備事業(一工区)工事請負変更契約の締結
- 昭和六十三年度野崎漁港関連道整備事業(二工区)工事請負変更契約の締結
- 町道の認定
- 太良町の区域内にあらたに生じた土地の確認 (大字多良字町)
- 太良町の区域内にあらたに生じた土地の確認 (大字糸岐字川北)

- 9・16 議会運営委員会
- 9・22 開会・本会議(議案一括上程、提案理由の説明)
- 9・23 議案調査のため休会
- 9・24 議案調査のため休会
- 9・25 議案調査のため休会
- 9・26 一般質問、議案審議質疑、討論、採決
- 9・27 議案審議、質疑、討論採決・閉会

九月議会の日程

- 人権擁護委員の推薦
- 米市場開放阻止に関する決議
- 昭和六十三年度太良町簡易水道特別会計補正予算(第一号)
- 昭和六十三年度太良町立多良病院事業会計補正予算(第一号)
- 昭和六十三年度太良町国民健康保険特別会計補正予算(第一号)
- 昭和六十三年度太良町一般会計補正予算(第四号)
- 太良町の字の区域を変更
- 太良町の字の区域を變更 (大字多良字町)
- 昭和六十三年度太良町一般会計補正予算(第四号)
- 昭和六十三年度太良町国民健康保険特別会計補正予算(第一号)

道路の整備等で 一般質問に五議員が登壇

佐賀空港建設に

伴う道路の整備は

田 崎 誓

問 佐賀空港建設に伴う道路整備について町民の願をこめて町長の見解をおうかがいたい。

長崎県と県境の太良町は佐賀空港が完成すれば、空港から太良町迄の現在の国道二〇七号線では非常に時間もかかるし、町民は大村空港を利用する人が多くなるのではないかと思います。

私は佐賀県民の一人として佐賀空港が完成すれば、ここを利用することが県勢の浮揚にもつながると思う。
そこで先づ佐賀空港と太良町間の道路整備が町民にとって大事と思う。

高速道路も嬉野・大村・長

崎バイパスにつながるようになってくるが、これが完成すれば必然的に利用も多くなりわが太良町は益々僻地化していくのは明らかである。

太良町の僻地化を防止するためにも、この道路整備を他の市や町と連絡をとりながら真剣にとりくむべきだと思うが、町長のお考えをおたずねしたい。

町長 佐賀空港建設に伴う道路については、九州知事サミット会議で佐賀県知事が有明海灣岸道路の早期実現をとりあげ、又県内では今年七月有明灣岸に係のある県会議員の発起で、周辺の関係市町長に呼びかけ、県の企画室、農林

部、土木部の各部長を招いて佐賀市で第一回の協議会を開き、ある程度具体的に話を進めている現状である。

ところで湾岸道路となると熊本県の荒尾市から佐賀空港

芦刈・白石・有明・鹿島農免道路・浜漁港・西葉に至り西葉から太良・小長井・湯江となれば二〇七号線と殆んど重複すると私は思案中であったが、幸い県農林部が県南部大型農道の開発を計画したのでこの計画の設計委託料も計上しているが県で現在調査中である。

この計画は今里の海岸から約八百〜千二百米内外の所を

海岸に併行して西葉の方へ通ずるものである。

問 湾岸道路が整備されると、

鹿島市内の国道二〇七号線を通らなくてよい訳で、時間的にも最短距離にもつながるので、湾岸道路の整備促進を鹿島市・有明町とも連絡をとりながら陳情書を県又は国に対して提出して促進する考えはないかおたずねしたい。

町長 湾岸道路・広域農道ともぜひ早期実現を図るため、鹿島市長と密接に連絡をとり、強く陳情を行い整備実現に努力する。

要望 町長始め執行部の皆さんにも又議員の皆さんにも、この問題を真剣に取り組んでいただき、佐賀空港とわが太良町を最短距離に結んで頂くためにも陳情書の促進をお願いしたい。

八月臨時議会で 議決した事項

○昭和六十三年度太良町一般会計補正予算(第三号)

○国庫補助負担率の復元に関する緊急要望決議



国道444号線から太良への整備が重要……

太良町を県のリゾート

計画の重点地区に

坂井達馬

問 観光問題で町長におたずねしたい。

ご承知の通り我国の農業は牛肉・オレンジの輸入自由化により大きな痛手を受けるこ

とは間違いなく。更に全米精米業者協会のコメ市場開放の動きは我が国農業を根底から崩壊させるものであり、国会はもとより全国の自治体で反



高原配風の話題になっているゴルフ場建設

対決がなされている。

一方第一・二次産業も二百海里水域体制により漁場の制限、水俣に見られる沿岸汚染など、きびしいものがある。

私はこのような現状に鑑み町民生活を守る立場から企業誘致を何回となく質問したが太良町の立地条件等により実現されていない。

しかしみかん暴落に対する対策、培養センター建設等々町民の勤労意欲をおこさせていることは評価すべきだと考

える。ご承知の通り太良町の町民所得は県下でも下位にランクされている。所得向上のため永久的な事業をと暗中模索の折八月二十三日鈴鹿の森観光開発株式会社社長永瀬氏を招いて観光開発懇談会が開催された。永瀬社長の発言の中には色々重要な話があったが、私が強く印象に残ったのは、もし計画が成功したら地元から一六〇名から一七〇名の雇用が必要と云う話であった。一次産業・二次産業とも産地間競争に負けない強い行政のリーダーシップが必要と思うが、同時に色々困難な問題

も予想されるが、太良町観光に取り組む姿勢について町長の所見をお聞きしたい。

町長 従来、町民所得向上のため、町ならびに議会において企業誘地に努力してきたが、立地ならびに諸要件に有利性が少なく今日までその実績が得られていない。

太良町は古来「豊足の里」と呼ばれ、宝の海「有明海」と霊峰多良岳を持つ町で、海の幸、山の幸に恵まれた町と云うことでこの名が生まれたと聞いている。

現在国の方針で農業も大きく変貌する状況にあるが、そこで発想を変えて山と海を結びつけた産業の中に農業も併

せた計画として酪農・畜産・健康なスポーツ、有明海海産物を取り入れたリゾート構想を積極的に促進する必要がある。

風配地区の開発は保安林解除が困難であるが、県ではリゾート構想の策定中であり、太良町を「特定地域」と「重点整備地区」の指定を知事に陳情したい。

永瀬社長との対応については用地対策、雇用対策、一次産業との関連、道路整備などを調査研究し、事業の進め方については準備委員会を設置したいと考えている。

進めて欲しい

峰越林道開発を

江口末男

問 大村市に再度の析衝を太良町と、大村市への産業道路として中山から多良岳キヤンプ場を経て多良林業会社に協力をお願いして大村市の黒木地区まで「峰越林道」を

開発することで、大村市との協議が昭和五十五年頃まで続けられてきたと思うが。町長 かねてから大村市と太良町間の従走道路の建設を念願してきた。



待望久しい峰越林道の建設（多良岳を越えて大村へ）

大村市と太良町間には約一万ヘクタールに及ぶ森林資源を有しており、この峰越林道が開通すると、両市町間の距離が大幅に短縮し経済と文化の交流に発展する。

昭和五十二年六月峰越道路開発について中山区長をはじめ地域のみなさんから陳情書も提出されたが、同年十一月大村市長・同市議会議長の同意を得て（大村―太良間の道

路開設に関する協議会）も設置された。

協議会の佐賀県側は県林務課・県林業課・太良町、長崎県側は営林署・県林務課・大村市で組織され何回も調査検討がなされたが投資額が大きく費用便益がでなく、便益費が（〇・二一四）と（〇・五二）となりマイナス以下のため民有林道事業としては採択困難とのことである。

また、国有林道事業としてもその効果から現在その必要性を認めていない。

このように厳しい結果が現在までの経過である。

この道路が開発できると、大村空港にも高速道にも近くなり、産業振興と観光交流は勿論大村市への最短距離になる。

鹿島市をとる国道四四四号線との関係もあるが、峰越林道開発に大村市と再度の折衝を希望したいが。

町長 今までの経過から、林道開発事業としては、困難性もあると思うがこの道路が産業経済道路としての必要性を考え「公道」としても検討し開発について努力する。

県道多良岳公園線道路改良の進捗状況について

問 多良岳公園線道路は拡幅されるのか新設になるのか、町民は大きな期待をもっているがどのように進められているか。

町長 現道路の全面的改良は大困難と判断している。

（J.R）の踏切と、近くにポイントもあってこの地点の拡幅は不可能に近い。

新設についても具体案は決定していないが、県でも瀬戸―油津区間の渋滞解消と、公園線改良に約四、五〇〇万円の予算措置をし鋭意努力されている。

八幡神社前附近がカーブで

大浦中学校の通学路に歩道を

限 部 祐 一

問 国道二〇七号線中島病院前の信号機から大浦中学校に至る町道の安全通学歩道設置について、町長・教育長におたずねしたい。

この町道は終戦直後産業道路として建設され、亀の浦、日の辻、野崎、平浜を通過して道越県道に接続する大浦地区南半島を一周する重要な道路である。

昭和二十五年大浦中学校が開校し、校門はこの道路に面している。

生徒数二百九十七名、教職員二十二名、この方面の小学校児童数六十名、高校通学生二十名、計約四百名が毎日通学・通勤をしている。

もあるので、拡幅にむけて交渉も進められている。

改良は建物のみに執着せず局部的にも改良するよう地元県会議員と共によく話しあい改善に努力する。

朝の通学時は、歩道もなく狭い道路を通行する通学・通勤者と通勤用商用の自動車で交通は非常に混雑し、交通事故の多発が心配されている。

大浦地区では、PTA父兄会や各種の集会の中で、この道路の交通事情について非難の声もあがっている状況である。

さらにこの町道から野崎漁港・平浜間の漁港関連道路が現在建設中で、六十四年度には完成することと思うが、将来は観光道路ともなる夢もある。

これ等の点を考えれば、今後この町道は交通対策の問題として、町政や教育上の立場

から通学路としての歩道設置等施設対策をせひとるべきだと思いがどうお考えかおうかがいしたい。

町長 ご指摘のとおり野崎から先は六十四年度に漁港関連道路整備事業が道越迄完了する予定で、現在の町道亀の浦・道越線上よりもカーブも少ないし道路幅も広いので、ここを通学路とすればご質問の問題は解決すると思うが、中学校

から亀の浦中島病院迄が問題であるが、この区間は地勢やいろんな状況から直ちに道路の整備というわけにはいかな

と思う。
そこで、国道から亀の浦のガードを通り元大同物産から大浦中学校校舎迄大浦港湾の海岸保全事業で幅員二・五米、三米のエプロンコンクリートの堤防があるので、車輛等の通行は無理としても中学生



通学時に交通が多い亀の浦中島病院附近

の通学のための通行は可能だと思うので、中畑・広江・里方面の生徒はここを通学路としたらとも考える、教育長ともよく協議したい。

教育長 現在の中学生の通学路の指定を変更して、中島病院からの道路を通学する生徒数を減らすように検討したい。
町長 教育長の答弁でよく

旧喰場道の

危険防止を

大鋸 四方太

問 風配高原の開発について 鈴鹿森観光開発株式会社代表取締役社長永瀬氏がゴルフ場建設に意欲を燃やされていることは太良町の将来の産業開発のため大変喜ばしいことと大変期待をしている。

この件については、議会議員と永瀬氏の懇談会も開き、町長も話しあわれたと聞いているが、去る二十二日の全員協議会では、風配高原の一部は水源涵養保安林となっており、保安林の指定が解除されなければどうにもならないと町長の説明があった。

わかったが、中学校の現在地は将来も変わらないだろうし、又野崎・道越地区の観光・産業の発展も考えれば、この道路の重要性はますます大きくなると思うので、整備計画を推進して貰いたい。
町長 いろんな事業や町財政等も含めてよく検討したい。

大惨事がおこる前に災害防止対策の一環として、又災害未然防止のためにも、なんとか対策が必要である。
あの旧喰場道路を見れば、そんな気がしてひしひしと胸に迫るものがあるが、町長の考えをおうかがいしたい。
町長 ご指摘の喰場道路は、新しい町道ができてから廃道となり、現在では農道となっている。

実は川原の移動役場のときもあの道路は深く掘削されて危険であり、大浦の権現山の地滑りのような事故が発生すれば村口さんの家も危険だとのことであった。

私は二十五年間役場の建設課にいたが、そんな所を思いださないで、土地改良課長建設課長に聞いたところ、知らないということであったので、早速翌朝八時半課長や川原の人と現場を見たところ、喰場の町道に沿って水路が峠の所を通って浦川氏の生コン工場の方まできており、それが水よけのようになって旧道に流れるので危険であることがわかった。

現在農林災害の申請中であ



降雨期には危険が予想される旧喰場道路

るので計画をするが、災害にかからないものについては関連事業で実施したい。
道路の方は受益者に生コン等の原材料を支給して実施されるように話しあいたい。
問 喰場道及び水路からの流水と茶ノ木原附近の対策は。
建設課長 嫁川迄の改良を計画している。旧喰場道からきた水もすべて嫁川に流す。
問 喰場溜池の放水路はどんな

っているか。
建設課長 南側にあったのが北側になるが放水路はないが溜池の漏水がないようにする。

議会の動き
(七月〜九月)

7・1 例月出納検査
7・4 議会だより編集委員会

7・6	議会だより編集委員会
7・7	経済常任委員会
7・11	議会だより編集委員会
7・19	J R 陳情(長崎)
	議会だより編集委員研修
7・20	J R 陳情(福岡)
7・22	県議長会評議員会
7・29	議員全員協議会
7・30	二十一世紀佐賀フォーラム
8・1	例月出納検査
	西部地区開発推進協議会
8・5	藤津郡議長・局長会
8・12	臨時議会
8・16	消防団夏季点検
8・23	観光開発懇談会
8・29	武雄市・鹿島市・杵島郡・藤津郡市町村広域圏組合議会
8・30	鹿島・藤津衛生施設組合議会
9・1	例月出納検査
	国道二〇七号期成会総会
9・2	正・副議長・局長研修
9・16	議会運営委員会
9・22	経済常任委員会
	定例議会第三回招集
9・26	議員全員協議会
	本会議(第二日目)

委員会に付託されたもの

- 9・27 本会議(第三日目)
- 9・29 資源培養施設新築工事
- 地鎮祭
- 9・30 監査委員研修

編集室より

総務常任委員会
○昭和六十二年度太良町立多良病院事業会計決算の認定について
○昭和六十二年度太良町水道事業会計決算の認定について

予算に制約された紙面の都合と、編集についての素人ばかりの議員の手により発行ということから、議会活動のごく一部分しかとりあげられず申しわけなく思っております。
皆さんの声を聞き少しでも内容を豊かにできるよう努力いたします。
今回は町長の特別のはからいで巻頭の写真を色刷りにいたしました。
町民各位の感想を議会事務局が編集委員にお聞かせ下さい。

議会だより 編集委員会

- 委員長 中村 智利
- 副委員長 江口 末男
- 委員 松尾 健作
- 委員 田崎 誓

「議会だより」も昭和五十六年八月一日付で創刊号を発行して、満七年になり三十号を出すことになりました。
太良町議会の様子を公平な立場で町民にお知らせすることを最小限度の責務として、定例議会毎に年間四回発行して参りました。